

## 大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）中間評価結果

大 学 名	東京大学
整 理 番 号	A-②-2
事 業 名	日中韓教養教育アライアンスによる高度教養教育の充実と「協創型人材」の育成

### 大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b style="font-size: 2em;">A</b>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p style="margin-top: 20px;">                     本プログラムは、豊富な交流実績を有する東京大学、北京大学及びソウル大学校の3大学がアライアンスを組み、高度な教養教育を基盤とする共同の副専攻であるアジア協創サブメジャーを形成することで、東アジア地域の歴史と現状を踏まえつつ、分野や地域の境界を越えて様々な知を理解し、多様な人々と協働しながら、グローバルな課題の解決に取り組むことのできる「協創型人材」を育成することを目的としている。                 </p> <p>                     当初計画していたサマープログラムに加え、ウィンタープログラムやスプリングプログラムを開催することで参加学生数が大幅に増えており、短期交流プログラムを中心に各国の相互理解やアジア協創サブメジャーの形成が着実に進んでいる点は評価できる。                 </p> <p>                     また、英語を基本言語としながらも、派遣・受入先大学では日本語、韓国語、中国語の講義の受講を推奨することや、多国の学生との対話を通じて交流を行う moving class や学生カンファレンスなどの特徴的な取組を実施している。語学の習得に関しては、中国語検定及び韓国語能力試験を基準として設けているが、外国語力基準を達成した学生数が目標数を上回っており、より上級の外国語基準合格者を輩出するなど、目標を大幅に上回る成果を挙げている。これらは後進の学生にとっても良い刺激となっているものと言える。                 </p> <p>                     一方で、ジョイント・レクチャーや共同サブメジャーのダブル・ディグリープログラムに関する取組については進捗に遅れが見られることから、実現に向けた更なる方策の検討が必要である。また、短期交流プログラムの成果をセメスター留学など長期留学の拡大に繋げていくことが期待される。                 </p> <p>                     最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的に事業を展開していくことが期待される。                 </p>	